

# と しょ かん 図書館だより

鳥居松小学校 2018.6.22  
図書館部発行 第2号

1学期の読書週間が終わりました。みなさんは、何冊本を借りて読みましたか。たくさん本と出会うことができましたか。

図書館には、まだまだたくさん本があります。雨が降って外に出られないときなど、図書館で本と触れ合いながら、心と体を休めてみてはどうでしょうか。



## ☆目標冊数が達成できたでしょうか。

読書週間中に図書室でかりた本の冊数と文化フォーラムでかりた本の冊数を合計した結果です。

クラス	読書週間に 読んだ本の冊数
1-1	123さつ
1-2	81さつ
1-3	74さつ
2-1	164さつ
2-2	154さつ
3-1	166さつ
3-2	103さつ

クラス	読書週間に 読んだ本の冊数
4-1	291さつ
4-2	269さつ
5-1	126さつ
5-2	198さつ
6-1	162さつ
6-2	197さつ



## 【課題図書紹介】



<ていがくねん>

### 『ルラルさんのだいくごと』

ルラルさんの大工仕事の腕前はなかなかのもの。窓やドアを直すのなんて朝飯前。いすやテーブルだって作ってしまいます。今日の大工仕事は、雨もりする屋根の修理。ところが、修理を終えて屋根からおりようとしたら…。

<ていがくねん>

### 『がっこうだっどきどきしてる』

はじめての教室、はじめての先生、はじめてのクラスメート。学校だっどきどきしてるって、知っていた？ぴかぴかの新しい学校といっしょに、どきどきして、切なくなって、笑える絵本。

<中学年>

### 『最後のオオカミ』

戦争を生きのびた少年・ロビーは、残忍なイギリス軍に追われる。一方、狩りで殺されたオオカミには子どもがいて…。孤児であり逃亡者であるという運命で結ばれた、オオカミと少年の友情と別れの物語。

<高学年>

### 『こんびら狗』

飼い主・弥生の病気が治るようお祈りするため、犬のムツキは江戸から讃岐の金毘羅さんまでお参りに出され…。ムツキの往復340里の旅路と、道中での出会いや別れを描く。本当にあった風習「こんびら狗」を基にした歴史物語。

<ていがくねん>

### 『きみ、なにがすき？』

あなぐまが、庭でともだちのすきなものをつくりたいと考えます。でも思いつくものはみんな、ともだちがもっていて…。友だち思いが空回りするあなぐまが、やさしい言葉に救われるお話し。

<中学年>

### 『レイナが島にやってきた！』

島の4年生は優愛たち3人だけだったので、女の子が同じ学年に転校してくるときて、優愛は楽しみにしていた。でも、その子はちょっと変わっていて…。里子として島にやってきたレイナと島の子どもたちのすてきなお話。

<中学年>

### 『すごいね！みんなの通学路：世界に生きる子どもたち』

世界中の子どもたちはどうやって通学しているの？地震や台風といった自然災害や、川の急流、険しい山道にも負けず、学校に通う子どもたちの姿をとらえた写真絵本。ノーベル平和賞受賞マララさんの写真も収録。

<高学年>

### 『ぼくとベルさん：友だちは発明王』

10才の少年エディは読書好きができないため、ほんとうは賢いのに、それを証明することができないでいた。そんなエディは発明家・ベルと出会い…。エディとベルの友情の物語。

<ていがくねん>

### 『なまずこのっぺ？』

「なまずこのっぺ？（なにこれ？）」「わっぱどがらん（さっぱりわからん）」ひとつの花の芽をめぐる昆虫たちの日常を、誰も聞いたこと、読んだことのない不思議なオリジナル言語「昆虫語」で綴る絵本。

<中学年>

### 『森のおくから：むかし、カナダであったほんとうのはなし』

アントニオは、深い森に囲まれた湖のほとりに住んでいました。ある夏、山火事が起きました。逃げる場所は湖だけです。そのとき、アントニオの目の前で思いもよらないことが…。100年ほど前に、カナダでほんとうにあったお話。

<高学年>

### 『奮闘するたすく』

小学5年生の佑は、おじいちゃんをデイサービスにつれていくことになった。先生は、そこで見たこと、聞いたことをレポートにして提出しなさいと言う。佑は介護される人と介護する人、それぞれの気持ちに気づいていき…。

<高学年>

### 『クニマスは生きていた！』

2010年12月、田沢湖で絶滅したクニマスが西湖で発見された。奇跡の魚・クニマスが私たちに問いかける「命のつながり」とは？最後のクニマス漁師だった三浦久兵衛さん・久さん親子の姿を通して描いた感動の物語。